

地域プロジェクト成果報告書
<仲良く作ろうプロジェクト>

八幡小学校一年 A グループ

このプロジェクトの概要は、学童保育に通う小学一年生 15 人のグループを対象としたものである。二週に一度訪問し、対象グループの児童と一緒に活動する。

活動の中で、児童が楽しく遊べるように学生がサポートしていくのが目的である。遊びを通して、背景で挙げる問題が改善すれば望ましいと考えた。

前期に行った地域プロジェクトの背景は三つあった。一つ目は、児童が人間関係を築くのが苦手なことである。このことから、児童同士、児童対学生のコミュニケーションが取れる活動が良いと考えた。二つ目は、他者の気持ちを考えることが苦手なことである。すでに構築されている児童同士の関係性が、どのように活動に影響するのかを考慮した内容にしていくのが重要だった。三つ目に、集中が続かず、自己をコントロールするのが苦手なことが挙げられた。児童が楽しみながら、考えられる活動を企画することが必要とされた。

前期の活動は上記の三つの背景をもとに、活動内容を計画した。しかし、実際に対象の児童と活動するとほかの特徴も見えてきた。勝敗が関わる遊びをしたときには、負けた悔しさから楽しくない素振りを見せる児童が多かった。それに比べて、工作活動では興味を示して集中した活動につながっていた。

後期の地域プロジェクトは、勝敗がなく身体能力の差があまり出ない工作活動を中心にした活動を行った。その活動を通して、児童同士がより良い関係を築くことにつながればよいと考えた。

地域プロジェクトの年間スケジュールは、以下の表の通りである。

日程	活動名
第 1 回 (5 月 10 日)	自己紹介で仲良くなるろう
第 2 回 (5 月 24 日)	高く飛ぶロケットはどっちかな
第 3 回 (6 月 7 日)	みんなで協力してボールを運ぼう
第 4 回 (6 月 21 日)	むくむくおぼけでじゃんけんぼん
第 5 回 (7 月 6 日)	なぞなぞかるたパズル
第 6 回 (10 月 18 日)	聞いて話してひとつになるろう
第 7 回 (11 月 8 日)	くだもの図鑑を作ろう
第 8 回 (11 月 29 日)	自分だけの魚を作ろう
第 9 回 (12 月 6 日)	クリスマスカードを作ろう
第 10 回 (12 月 20 日)	サンタさんのおてつだい

各回の活動のプロセスと成果について説明する。第 1 回の活動では、ゲームを交えた自

己紹介を行った。児童の活動への緊張をほぐすのがねらいにあったが、児童間ですでにグループが形成されていた。そのため児童同士の関わりに緊張はなく、学生との関わりにも緊張は見られなかった。この回の活動の遊び要素が少なく、児童が飽きてしまう場面があった。よりたくさんの遊び要素を取り入れることが、反省として挙げられた。

第2回の活動では、工作活動を取り入れた。はさみを使うための約束を提示すると、しっかりと活動の最中に守れていた。全体に指示を出し、グループで作業をするような形でこの回は進行した。しかし、グループ作業では進度に差が出てしまった。このことから、工作活動等でグループを分ける場合には、グループごとで指示を出すのが児童の集中も続きやすいと考えた。

第3回の活動では、児童が協力するきっかけとなるような遊びを用意した。勝敗が関わる遊びだったので協力する姿勢は見られた。遊びの試行回数が少なく、勝敗を分散させられなかったのが反省として挙げられた。

第4回の活動では、児童からの要望も多かった工作活動を行った。グループごとに指示を出すと、第2回の全体から出す指示に比べてどれだけ集中が続くかを見た。結果として、この回の進行では第2回よりも集中が続いた。材料の配布に時間がかかったため、グループの人数分を予め用意するようにした。

第5回の活動では、かるたとパズルを組み合わせた遊びを行った。かるたを取れなかった児童に分ける姿や、パネル作成を協力して行う姿勢が見られた。

第6回の活動では、相手の話を聞くのを促す遊びの内容にした。最初のうちは興味がほかに向いていた児童も、遊びが進むにつれて興味が向いていった。活動時間をより確保するために、わかりやすく簡潔な説明をすることにした。

第7回の活動では、普段あまり使わない道具や技法を使った工作活動を行った。数の限られた道具を、児童同士で譲り合いながら使っていた。ゴミ袋の設置で、出たゴミの後始末もスムーズにできていた。この回から、工作活動を主とした内容に移した。

第8回の活動では、手に入りやすいものを使っての工作活動だった。児童は工作に集中して取り組み、一人一人の作品にそれぞれ個性が見られた。お互いに作品を褒め合う姿もあった。

第9回の活動では、クリスマスイメージしたカードを作成した。グループごとに自分の思うクリスマスを話しながら、表現することができていた。

第10回の活動では、細かい作業も取り入れての工作活動を行った。穴に糸を通す作業だったが、自分で最後までやっていた。糸の結び方にも挑戦したり、自分で工夫したりしていた。

活動の総括として、児童の興味関心をひく題材を取り入れることで活動により集中して取り組む姿が見られた。道具を使う機会を多く設けたが、共用のものでも取り合いの喧嘩をしなかった。児童同士で、貸し借りの声かけが自然とできていた。今後、共用の道具はみんなですべて使うということが意識できれば、グループでの良い関係の構築につながると考えた。学

生は、児童が切り替えやすい効果的な方法を考えるべきである。

ほかに、クリスマスなどのイベントを扱うときには児童一人一人の状況に注意が必要だと指摘をいただいた。その点に配慮した上で、今後は活動を計画することが課題として残った。

今回の地域プロジェクトで学生の受け入れをしていただいた、学童保育、小学校の諸先生方、誠にありがとうございました。

八幡小学校一年 A グループ メンバー一覧

担当教員 新開谷 央

c26437ts 高橋 沙織

c26438is 池田 咲

c26439ht 橋本 智仁

c26440my 目黒 幸永

c26441kr 菅野 莉玖

c26442mn 松村 菜美子